◉相模湾真鶴港発↓真鶴沖

港前の近場でアタリ活発！ 真鶴沖のカワハギは良型主体

本誌APC（神奈川）／平林 潔 Kiyoshi Hirabayashi

もうずいぶんと昔のことだが、真鶴半島周辺のカワハギ釣りが脚光を浴びたころに仲間と出かけたことがある。

良型ばかりが激しく竿を絞る鮮烈な釣りで、東京湾のスレたカワハギとは違い素直にエサを食ってきたと記憶している。

その後、数回出かけてからはご無沙汰しているが、今現在の様子はどうなんだろう？とイメージを膨らませながら1月15日、相模湾真鶴港のさい丸へ向かった。

横浜の自宅から真鶴港までは、東名→小田原厚木道路経由で1時間15分ほどと案外近い。もっと、この方面に足を運んでもいいなあ……と思った次第だ。

さい丸の船着き場に到着したのは5時15分ごろ。まだ暗い中で船長にあいさつしたが気のいい船長だ。

▲真鶴沖のカワハギは3月ごろまで楽しめる

最近のカワハギはいかに？

当日はカワハギの予約乗合で、僕のほかに3名の予約が入っているとのこと。

当時すごかったカワハギ釣りの話をしたところ、「いやいやそのころのイメージはなくしたほうがいい」と船長。

3年前まではドン底状態で、トップが3～4枚なんて貧果が続いたらしい。2年前から回復傾向になりトップで10～15枚くらいは釣れるようになったということなので、目標はツ抜けに修正した。

半島周りは岩礁帯なのでカワハギの生息環境として恵まれている。このまま回復傾向が続くといいのだが……。

6時15分になり全員が乗り込んだところで出船。曇り空のせいもあって、辺りはめちゃくちゃ暗い。

港を出て右に舵を切り、6時半ごろに半島先端の三ツ石のちょい手前から釣りスタート。水深は34メートル。切り立った海岸線が海底まで続くから、この水深でも岸からは近い。

すぐに左ミヨシで20センチ超えのカワハギが釣れた。カメラを手にして船上を動くが、風向きと潮の流れのバランスが悪く船はひどく揺れる。

しばらくして同じ方が良型のメイチダイを釣った。あまりなじみのない魚だがおいしい魚である。

7時過ぎに、やっと僕の竿にもアタリ。オモリを着底させた状態で仕掛けをカシャカシャ躍らせてストップ。ゼロテンションでしばし待ち、スッと聞き上げて竿に乗せた。海面に浮かんだのは20センチそこそこのカワハギだった。

あまりにも船が揺れるので、三ツ石を南側に回り込んだワンドに移動。ここは風裏になっており静かだ。水深は28メートル。魚探を見ると案外と平たんだが、一帯には魚礁が入っていて船はその上を流しているそうだ。

左舷トモでロックフィッシュ狙いのルアーをキャストしていた仲乗りさんが大きく竿を曲げた。

上がったのは35センチほどのオオモンハタ。場所が場所だけにロックフィッシュ狙いも面白いが、竿を出すにあたっては事前に船長に相談しておく必要がある。

僕の竿にも再びアタリ。ちょっと底を切ったところでモゾッときた。やたらと引くなあと思ったら、正体はウマヅラだった。

続いて少し底を切った付近でたたいて竿を止めたときにカサッと触る感触。もう一度たたいて止めたらクッときた。

今度は本命のカワハギで測ってみると23センチ。しばらくしてから追釣したカワハギも同じパターンで掛けた。

この場所を何度も流し直したが、好調なのが左舷ミヨシの方。2号の中オモリを使い、完全ベタ底の這わせ釣りで食わせてポツポツと数をのばしていた。

右舷ミヨシ、左舷胴の間でも型が出て、全員オデコ脱出したのは8時過ぎ。しかし、僕の釣り座ではエサが丸まる残っている状態が続いたので攻めようがなかった。

港前が勝負ポイント

9時になり船長は船を港前へと移動させる。定置網がたくさんあるので「おっ、定置網狙いか」と期待したが、船長に尋ねると、

「以前はできたんだけど、今は定置網周りを狙うのは禁止されているんだよ」とのこと。

港前の水深28メートルでは、入れた途端にキレイにエサがなくなるというこの日初めてのチャンスタイムが到来。

「ここが勝負ポイント。ここでスイッチが入ったらすごいことになるよ」と船長。先日カワハギ狙いで出船したときは、港前で29センチの大型も顔を見せたそうだ。

エサが取られるようだとやる気も出てくる。あまり激しく誘うとエサが残ったままなので、宙層で少し躍らせてからじっとアタリを待つと、カサッとかクク、コツッなど多彩なアタリが返ってくる。

色んなアタリに反応してポツポツと本命を追釣したが、ゲストがまったく交じらず、アタリがあれば百発百中カワハギだから勝負のしがいがある。そんなことを思っていると予報が早まって9時半過ぎには雨が降り出して、撮影しながらの取材には厳しい状態になってしまった。

11時の沖揚がりギリギリまでスイッチオンを期待したのだが、ポツポツの状態のままカワハギ7枚、ウマヅラ1枚で竿を納めた。

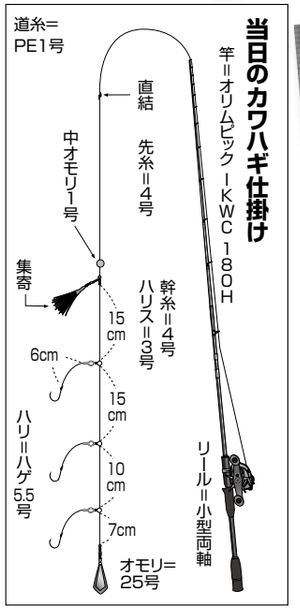
釣果は3～12枚。小型は少なく型もそろって20～23センチ級がメインだったので内容的には悪くなかった。ちなみにトップの12枚はすべてベタ底狙いでの釣果だったようだ。

天気さえよければロケーションは最高だし、港前がすぐ釣り場だしと魅力的なカワハギ釣りが楽しめそう。

3月中まではカワハギ乗合を出すそうなので、一度出かけてみてはいかがだろう。

▲この日のアベレージは20センチ級

当日のカワハギ仕掛け



•Tackle Guide

仕掛けは市販のカワハギ仕掛けで問題ない。小型の数釣り場ではないので小バリ、細ハリスは避けたほうがよいだろう。根や魚礁周りを攻めることが多いので仕掛け、オモリの予備は多めに用意しておこう。

◉船宿information

相模湾真鶴港
さい丸
☎0465・68・2761
（詳細は巻末の情報欄参照）

御守 紀幸船長

▶料金＝カワハギ乗合8500円（エサ別、氷付き）エサは持参
▶備考＝予約乗合、6時と12時集合

知っ得！ Tips and Tricks

ウマヅラハギは煮つけで！

昔はカワハギ釣りをしているとウマヅラが何枚も交じり「チェッ」なんて言ってリリースする光景も見られたが、いつごろからかあまり見かけなくなった。

関西では昔からウマヅラが重宝されているのは事実で、僕は姫路のデパ地下の水槽でウマヅラやキュウセンベラが泳いでいるのを見たことがある。数が減ってからは、たまに釣れるとうれしくてありがたい魚に思えてしまう。正直カワハギに比べると刺身では今イチだが、僕は無難に煮つけにしている。身離れがよくて家族にも評判がいい。

▲ショウガを多めに入れるとうまい

●ひらばやし　きよし／暮れに市川團十郎襲名公演を観劇した。團十郎の助六、素晴らしかった。